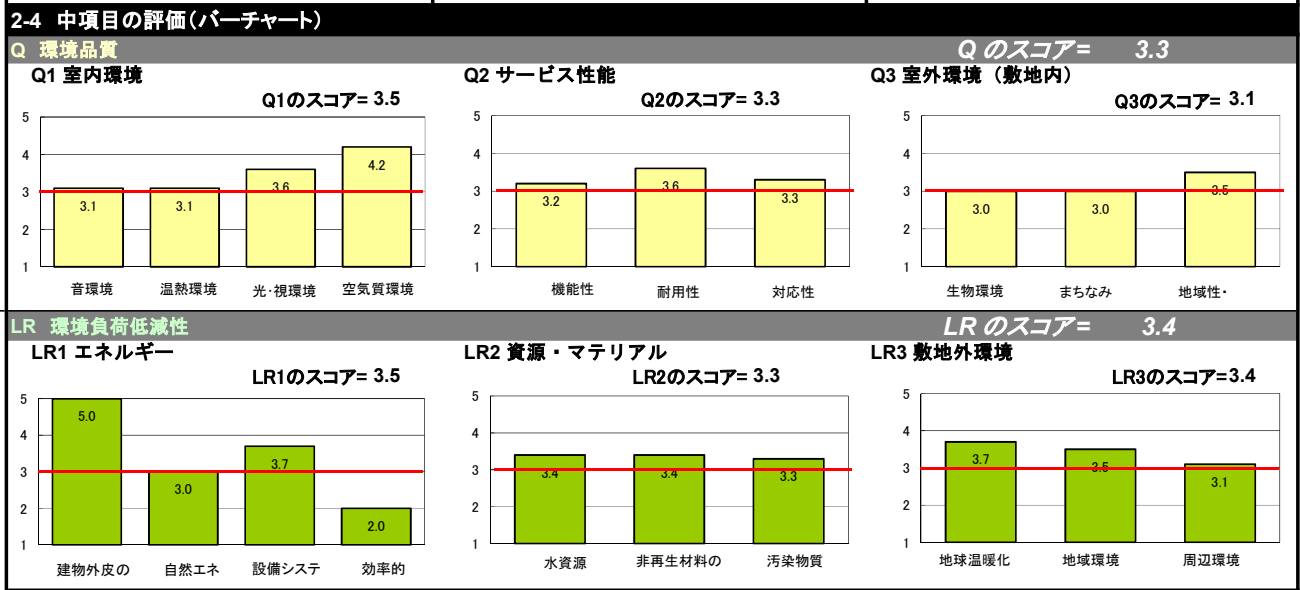
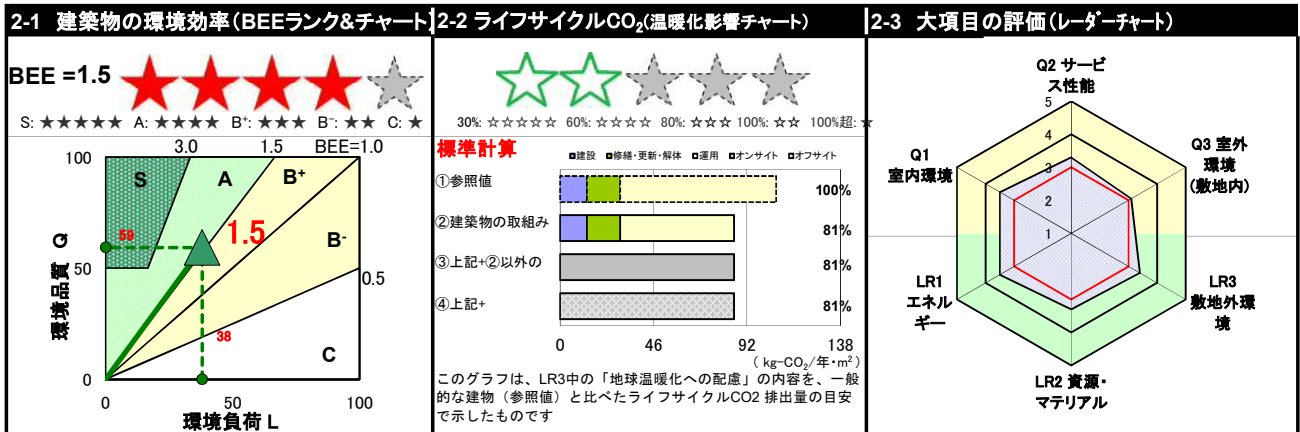


# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東京ガス北浦和ビル	階数	地上3F
建設地	浦和区北浦和5丁目110番6	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	200 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,640 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2017年12月5日
敷地面積	2,853 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 久米設計
建築面積	688 m <sup>2</sup>	確認日	2017年12月5日
延床面積	2,078 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 久米設計



3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
周辺環境に配慮した、合理的で災害に強い建築計画。構造形式を単純化することで合理的かつ堅牢な耐震性能を確保し、直天井や、保安用発電機設備の設置、自然換気対応など、防災拠点としてBCPIに配慮している。将来の施設計画変更にも柔軟に対応する配慮・平面計画としている。敷地周辺への視線配慮や日影の影響配慮、西側道路に対して緑地帯を整備し、周辺環境・地球温暖化にも配慮したやさしい計画としている。		事務所ビルにありがちな規則的で堅い表情を緩和し、周辺住宅街に対する親和性を考慮した外装デザインとした。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
複層ガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げていくなど、温熱環境に配慮している。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。	天井高を高くし、屋上テラスを設置するなど心理性・快適性に配慮している。階高を高く設定し、空間にゆとりをもたせている。補修必要間隔の長い配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行い、良好な緑地環境に配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性を確保し、管理用車両のスペースを確保するなど、交通負荷の抑制に配慮している。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
外断熱工法の採用及び必要な箇所に限定された開口部を計画することで、建物の熱負荷を抑制している。高効率空調機、LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	自動水栓や、省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。また、フリーアクセスフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される